

日本放射線科専門医会・医会  
CT/MRI 灌流画像の標準化に関するワーキンググループ第一回会議  
議事録

平成 16 年 7 月 2 日

ホテル海の中道 第一会議室 (福岡市東区西戸崎 18-25)

出席者：井田正博、工藤與亮、黒岩大三、興相征典、佐々木真理、庄内孝春、高木亮、三原太、百島祐貴、山田恵、渡辺嘉之 (アイウエオ順、敬称略)

1) CT 灌流画像解析ソフトの定量性の検証について

工藤先生より進捗状況の報告があった。同一データを 5 種類のソフトで解析し、定量画像を比較した結果、ソフト間で大きな差異があることが報告された。現在他の数種類のソフトについても作業を進めていること、CT 灌流画像専用のファントムの制作が進んでいることも併せて報告された。

重要な研究なので早く論文化していただくようお願いすると共に、今後皆で協力していくことを確認した。

定量画像の差異については deconvolution algorithm 自体よりもノイズ除去フィルタや血管除去といった前/後処理が大きく影響していることが指摘された。工藤先生から本件に係る新しい処理法の紹介があった。

2) MR 灌流画像解析ソフトの定量性の検証について

三原先生、山田先生、井田先生から各社の解析ソフトの詳細に関する報告があった。また、百島先生から最新ソフトに関する情報提供があった。

メーカー間で解析手法や用語などがかなり異なることが明らかとなったため、今後これらについて整理し、後日報告して頂くことになった。

メーカー間検証作業は、Dr View, GE, Phillips, Siemens, Toshiba の 5 社について CT の検証作業に準じて行っていくことを確認した。検証パラメータの選定、元画像の提供、メーカーへの協力依頼などは三原先生、山田先生、井田先生、百島先生に順次進めて頂き、結果の解析は工藤先生にお願いすることとなった。

3) 実践的ガイドライン策定について

本件の進め方、目的、方針、Research question, エビデンスレベル分類などについて佐々木より提案と説明があり、大筋で了承された。一般的なガイドライン策定手順に準ずること、多くの施設の日常臨床で役に立つ実践的な内容でありながら科学的根拠や専門家の意見も盛り込まれたものにする、検査の安全性についての指針を示すこと、CT と MRI 間で整合性のとれた内容にすること、多施設臨床研究などでの利用も想定することなどが

確認された。

CT に関しては高木先生、庄内先生、黒岩先生に、MRI に関しては井田先生、山田先生、渡辺先生に文献収集、批判的吟味、エビデンスレベル分類、草稿の作成などをお願いし、ガイドラインとしてのとりまとめは百島先生を中心に三原先生にもご協力頂きながら進めていくこととした。

#### 4) 厚生労働省循環器病研究委託費(畑澤班)との関係について

渡辺先生より本ワーキンググループのガイドライン策定を標記研究班における今年度の研究の一つ(渡辺先生の分担研究)として採り上げてよいだろうかとの提案があった。ガイドラインの乱立は回避すべきであり、また専門医会に加え厚生労働省の後ろ盾をえることができることから、渡辺先生の提案を了承することとした。渡辺先生に研究班主任研究者と相談して頂くことになった。

専門医会画像診断ガイドラインや日医放との関係については興相先生にご高配頂くようお願いした。

#### 5) その他

佐々木よりワーキンググループの成果発表予定について説明があった。今後各自積極的に紹介、発表していくこととした。また、広報活動の一環として web page を立ち上げることとし、百島先生に担当していただくことになった。

次回の会議は第 32 回日本磁気共鳴医学会大会の会期中(9/16-18, 大津)、次々回は第 2 回 CT パフォーマンス研究会(11/6, 東京)を予定することとした。

文責 佐々木